

「任せて良かった」と言われる仕事をしたい



まえ だ あい か  
**前田 愛花 さん**

人文社会科学部  
(2021年3月卒)  
セキスイファミエス東海株式会社 (営業職) 勤務

1998年生まれ、静岡県立静岡高等学校卒  
趣味はロードバイク・カメラ・カフェ巡り  
好きな言葉は「置かれた場所で咲きなさい」

**幅広く学び、じっくり専門分野を選択**

静岡大学は地元ですし、さまざまな学部があって、専門分野以外で興味のあることも学べるので選びました。特に、社会学科は、時間をかけてコースを選択できる点が決め手の一つになりました。興味のある分野が幅広く、専門を決めかねていましたが、各コースを受講する中で、社会学科への関心が高まり、十分に検討した上で選択することができました。

**社会学のゼミで培った柔軟な思考**

社会学のゼミでは「夫婦の家事分担」を研究テーマにアンケート調査を行い、性別や年齢による価値観の違いについて分析しました。社会学では、一つの事柄をさまざまな角度から捉えます。こうした学びを通して身につけた柔軟な思考は、現在の仕事においても、お客様の価値観や好みを固定観念にとらわれず受け取る姿勢につながっています。

**誰かを笑顔にしたい  
「よさこいサークル」へ**

サークル活動は、「よさこいサークル お茶ノ子祭々」に所属していました。入学式で先輩方の演舞を観て憧れ、「私も誰かを笑顔にしたい」と感じたことがきっかけです。この「誰かのために」という思いは、現在の仕事の軸にもなっています。



声でよさこい演舞を支える役割をしていました

お客様のより良い暮らしのため、そして自分の仕事を支えてくれる会社のメンバーのために、自分にできることは何かを常に考えながら行動するよう心掛けています。

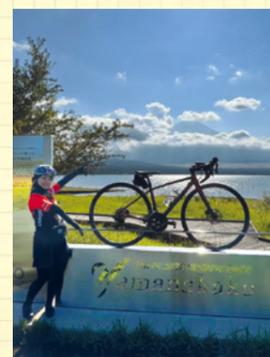
**暮らしに関わる仕事で、  
誰かの力になりたい**

現在、私の主な業務は、住宅のメンテナンスやリフォームのご案内、各種ご相談への対応です。「誰かの力になりたい」という思いと、暮らしに関わる仕事への関心から、この仕事に就きました。幅広い年齢や職業の方とお会いする機会が多く、日々刺激を受けています。お客様にご満足いただけたときは、やりがいを感じますし、「次も頑張ろう」という原動力につながっています。これからも信頼関係を大切に、「前田さんに任せて良かった」と思っていただけのような仕事を続けていきたいです。



お客様にリフォームのご提案をしています

**「今しかできないこと」を  
全力で楽しんで!**



趣味のロードバイク、山中湖での1枚

大学生は、自由で、選択肢がたくさんある時期だと思うので、サークル、研究(ゼミ)、留学、ボランティア、友人との時間、旅行、アルバイトなど、好きなことを全力で楽しんでほしいです。大学で培った経験は、これからの人生のどこかで必ず自分自身を支えてくれます。後悔のない大学生生活を送ってください!



前田さんが学んだ人文社会科学部について、くわしくはこちらから →

静大で培った研究力で、世界の農業に貢献を



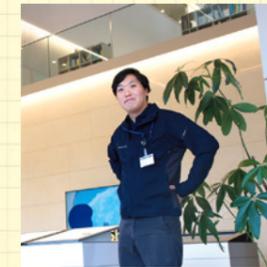
いし わき けい た  
**石脇 啓太 さん**

農学部  
総合科学技術研究科 農学専攻  
(2021年3月卒)  
クミアイ化学工業株式会社 (研究職) 勤務

1996年生まれ、福井県立高志高等学校卒  
趣味は読書、登山  
好きな言葉は「丁寧に迅速に」

**静岡大学が拓いた研究職への道**

自然や化学について学びたいと考えていたので、学科や研究分野の多様さ、温暖で住みやすい気候風土に魅かれて静大農学部を選びました。その選択が、静岡にあるクミアイ化学工業で働くこと、研究職としての道へとつながりました。



新研究所で働いています

**研究者の素養を磨いた大学院時代**

大学院では、植物ホルモンに関する研究に取り組みました。化合物の有機合成や植物を用いた評価試験、統計的手法によるデータ解析など、幅広い研究プロセスを経験しました。



大学院研究室時代の同期たち

化学実験に関する基礎的な素養や研究の考え方を身につけることができた貴重な期間であり、現在の研究職の土台となっています。また、苦楽を共にした研究室同期とのつながりや、後輩への指導経験も、他では得がたい大切な財産です。

**学部行事の運営経験も役立っています**

在学中は、農学祭実行委員会に所属していました。大学祭とは別に、農学部独自で実施する農学祭や新入生向けの新歓行事などのイベント企画・運営に携わりました。多くのメンバーと協力しながら物事を進めた経験は、社会に出た今でも役に立っています。

**研究成果を社会につなぐ農薬製剤研究**

現在、農薬の製剤研究をしています。農薬の有効成分を、農家の方にとって安全かつ使いやすい形で製品化する仕事です。この仕事を選んだのは、大学で基礎的な研究に取り組んだ経験や、実際の製品開発に生かしたいと考えたからです。創意工夫を重ねながら課題を解決し、そこから得られた成果で、日本のみならず世界の農業に貢献できる点に大きなやりがいを感じています。日本の農業は今、高齢化や従事者の減少などの課題に加え、ドローンなどを活用するスマート農業への転換期にあります。私も、農薬製剤の研究者として、新たな効率化につながるような革新的な技術の開発に挑戦していきたいと考えています。



農薬製剤の試作の様子

**学生の皆さん、同期の仲間を大切に!**

大学での勉強や研究が、仕事に直接つながるとは限りませんが、大学で得た経験や物事の考え方は、必ず自分自身の土台となります。大学生の今だからこそ、幅広くさまざまなことに積極的にチャレンジしてください! 私は卒業して5年経ちますが、農学部や研究室、サークルの友人、そして同期とのつながりは一生ものだと感じています。最も身近な存在として切磋琢磨し合える同期の仲間を、ぜひ大切にしてください。



研究所の同期たちとの登山



石脇さんが学んだ農学部、総合科学技術研究科農学専攻について、くわしくはこちらから。 (左) 農学部 (右) 総合科学技術研究科農学専攻 →

